

令和3年度 認知症サポーター キャラバンメイト 活動状況調査の集計結果

送付数：78件

回答数：42件（回答率：53.8%）

【1】回答者について

【職種】

| | |
|---------------|----|
| 企業のキャラバンメイト | 11 |
| 行政関連のキャラバンメイト | 31 |
| その他 | 0 |

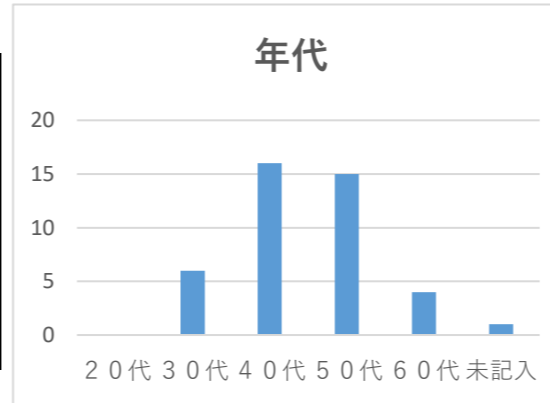
【企業】

生命保険・金融機関・学校教育・医薬品関連
住宅関連・その他

【年代】

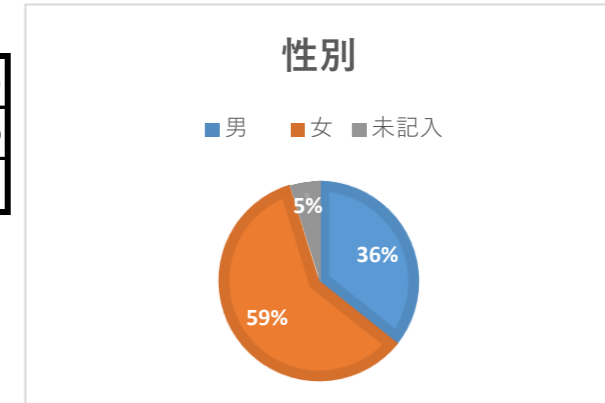
| | |
|-----|----|
| 20代 | 0 |
| 30代 | 6 |
| 40代 | 16 |
| 50代 | 15 |
| 60代 | 4 |
| 未記入 | 1 |

平均年齢：44.1歳



【性別】


| | |
|-----|----|
| 男 | 15 |
| 女 | 25 |
| 未記入 | 2 |

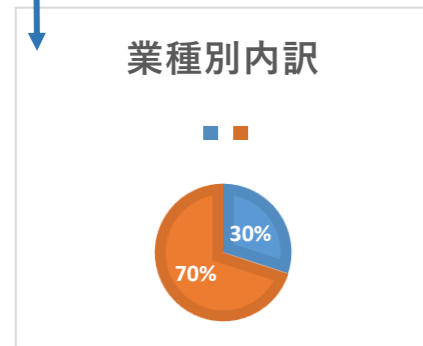


【2】キャラバンメイトの活動状況

①令和元年から令和3年12月までの間、キャラバンメイトとして活動をした

| | |
|-----|----|
| はい | 30 |
| いいえ | 12 |

様々な年代や職種の方がキャラバンメイトとして
頑張っておられます！
＼ありがとう／




【はい】

②年に何回位活動をしたか

| | |
|--------|----|
| 1～10回 | 26 |
| 10～50回 | 3 |
| 50回以上 | 1 |

延べ人数

| | |
|---------|----|
| 1～50人 | 14 |
| 51～100人 | 6 |
| 101人以上 | 7 |
| 未回答 | 3 |

【いいえ】

⑦活動できない理由

| | |
|--------|---|
| 仕事が忙しい | 1 |
| 機会がない | 3 |
| 自信がない | 5 |
| その他 | 4 |

■複数回答可

サポートがあったら活動したい

| | |
|-----|---|
| はい | 9 |
| いいえ | 3 |
| 未回答 | 0 |

*3ページ目に詳細

③講座に際し、工夫していること・大切にしていること

| | |
|--------------------------------|----|
| ①受講者の方に認知症について分かりやすく伝えること | 27 |
| ②地域や職域で認知症サポーターとして活動できる人を育てること | 13 |
| ③受講者の背景（職業や居住地等）に即した内容 | 20 |
| ④地域や仕事をする上で認知症の方への対応力 | 10 |
| ⑤グループワークなどで認知症の対応について考えてもらうこと | 7 |
| ⑥その他 | 3 |

■複数回答可

【その他】

- ・認知症の本人や家族の苦しみや頑張りを理解できるように伝えること
- ・認知症は特別な病気ではなく地域にもすでに認知症の方が存在していること。受講者の方の支えがあれば自宅や地域で暮らし続けられることを伝えたい
- ・実例を取り入れてイメージしてもらうよう努めている。
- ・成功例や失敗例も含め、自身の経験談を伝え、認知症について分かりやすく伝えること。

それぞれのキャラバンメイトが自分の経験談を話したり地域の実情を伝えることで受講者の方により分かりやすく認知症について伝えられるよう工夫している

→他のキャラバンメイトと事例を共有できると良い

④講師をして良かったこと・嬉しかったこと■自由記載

- ・参加者全員が前向きに受講、講座内容を聞き（学び）対応に対する自信につながった。・傾聴ボランティアとして入院患者さんにボランティアを行ったなど学びの場になった。
- ・同じ企業の方から何度かお声かけいただいた際、『よく分かり良かった』と言ってもらえた。・アンケートで受けて良かったと意見をいただいた時
- ・グループワークをした際、熱心に取り組んでくれたこと。・認知症のことを病気としてとらえ、ひとりの人として接する気持ちを持てる姿勢の人が多く、認知症の方が喜ぶこと、安心できることをしていきたいという心構えが聞かれたこと。・アンケートの感想より、認知症についての理解が得られた等のコメントがあり、講座の開催に携わって良かったと思う。
- ・受講者の方がご家族の今後について事前に考えるという意見があった。・『認知症の人の接し方について、よく理解できた』という声がアンケートでたくさん上がったこと。
- ・自分自身が認知症について改めて勉強するきっかけとなった。・他の地域で小学生、中学生に認サポを実施してきたことで、学校やPTAにも理解してもらえたこと。
- ・受講者から『認知症のイメージが変わった』『対応の仕方が分かった』という意見をいただいたこと。・認知症のことを分かってもらえた時（アンケートで『いままで誤解していた』『できることを自分なりに考えて行動したい』『優しく関わりたい』等）講座を開催してよかったと思う。・認知症についてご自身のこと、ご家族に起こりうることとして考えてもらうことができたとき。
- ・自分自身が少し認知症が出ていた祖父母に優しくできなかったという反省（後悔）がある。認知症の方に優しくできる人を地域で増やしていくことで何らかの『認知症の方にも優しい街づくり』の一助になれば良いと思っている。
- ・少しでも認知症について考える機会になったことや思った以上に地域の方やお店（職業として関わっている方）の方たちは認知症の方を気にかけてくださり、認知症について学びたいと思ってくださっていることを知れた。・区民向けの講座を実施。様々な立場、年齢の人がいて受け止め方も様々だったが認知症について無関心ではないことが感じられて希望が持てた。
- ・受講者から認知症で困っている方がいたら声をかけてみると話があったこと・社内で認知症に対する理解が進み、共通の知識を取得できた。全社員の認知症サポーターの取得をすすめており、社内での知り合いが増えた。・家族や地域の高齢者対応に役立てたいという受講者からの声があったこと・地域の企業の方との交流が図れ、地域の情報を受講者に伝えられること。
- ・講座を通じて地域の方々と交流できた。顔見知りになった人もいる。学生や企業など継続して交流できるような活動があったら良い。

・講座を通して『認知症についての理解ができた』『認知症の方へ優しく接したい』『認知症は自分にも自分の家族にも起こりうること』として考えてもらえた

→認知症について正しい知識を伝えられた！

・地域の方も地域に住んでいる認知症の方を心配して見守ってくれていることが分かった。認知症に優しい街づくりになってきていると思う。

→こころのバリアフリー・認知症に優しい街づくりができた！

・講座を通して今まで関わりのなかった職種や世代の方と関わることができた。→新たな仲間ができた！

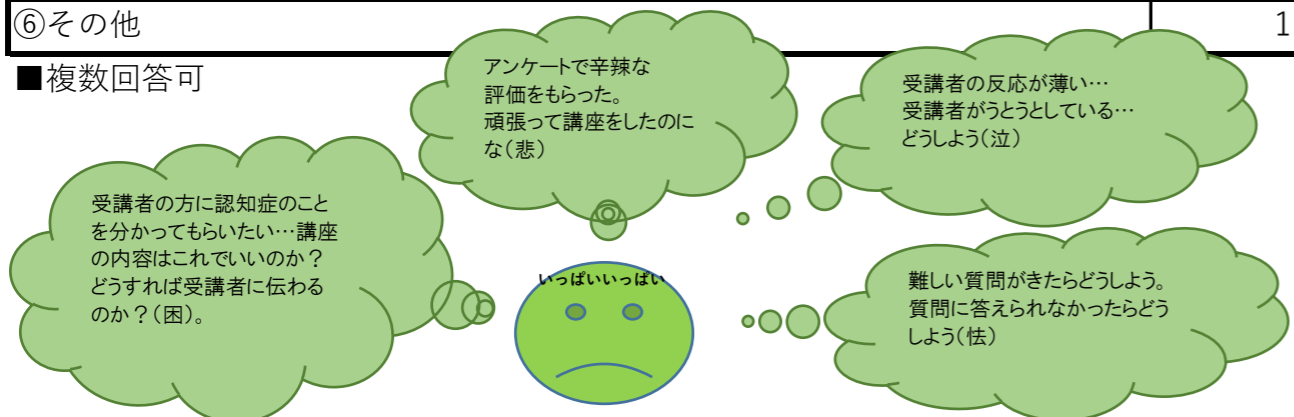
＼がんばっているね／



⑤講座を開催する中で対応に困る場面・課題等

| | |
|------------------------------------|----|
| ①コロナ禍で集合型（対面式）の講座ができない | 12 |
| ②受講者の質問に対応することができなかった（質問に答えられなかった） | 2 |
| ③受講者が集まらない | 1 |
| ④受講者の理解が十分に得られているか不安がある | 9 |
| ⑤講座の内容が“これで良いのか”不安がある | 8 |
| ⑥その他 | 1 |

■複数回答可



- ・キャラバンメイトの講師により内容が違うのは受講者にとってどんなものなのかと考えることがある。・90分の時間では足りない・養成講座を開催したものの、業務にどのように生かしていけばいいかわからない。他社の成功例を知りたい。
- ・企画や主催者としての働きがあまりできていないことが気になっている（開催地区・場所・対象者など意図的にできないため）・受講者の反応を見ながら講義する方がやりやすい
- ・同様の企業からの依頼で企業内キャラバンメイトが活動できていないように感じる・オンラインでの開催の場合、相手の反応が分かりにくい。
- ・同じ企業から何度も講義依頼を受けることがある。企業の中で自社メイトの育成について、より周知を図る必要があると感じた。・認知症の方の対応方法についての質問があったときに、マニュアルにするかのように正解を求められたときは困った。
- ・自分から進んで受講される方と会社や学校から受講するように言われ仕方なしに受講する方では、聞く姿勢や取り組む姿勢が違うため、時には講師として虚しいときがある。
- ・受講者が企業の方々（研修の一環で受講）だと『認サポだけをやりたい』と言って受講する方々より意欲、興味がわからないようで、どうしたらひきつけられるか苦戦する。・情報の更新状況が分からない

→キャラバンメイト同士で『こんなときどうする？』『こんなことがあって困ったよ』などが気軽に話せる場所があるといい！

⑥キャラバンメイトフォローアップ研修で受けた内容・やってみたいこと

| | |
|-------------------------------------|---|
| ①最近の認知症施策や認知症に関すること（情報のアップデートをしたい） | 8 |
| ②認知症サポーター養成講座の内容に関すること（講座の運営やPPの内容） | 5 |
| ③認知症予防に関すること | 4 |
| ④若年性認知症に関すること | 2 |
| ⑤キャラバンメイト間の情報交換 | 6 |
| ⑥その他 | 4 |

■複数回答可

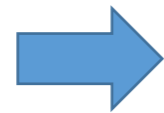
・認知症の方の気持ちや状況を受け止めて臨機応変、柔軟に対応するという姿勢や心構えなどを講座の中で（ロールプレイ等）実践できると良い。
 ・予防の方法やポイント、トレーニング（サポーターがさらに人に伝えられるような内容が知りたい）
 ・質の高い講座が提供できるように、それぞれのキャラバンメイトがどのような工夫をされているか情報共有したい。

⑦活動できない理由

| | |
|---------------|---|
| ①仕事が忙しい | 1 |
| ②講座を開催する機会がない | 3 |
| ③講師を務める自信がない | 5 |
| ④その他 | 4 |

■複数回答可

- ・キャラバンメイトになったばかり
- ・依頼がない
- ・他の職員や業務調整・分担のため



■活動していない人のなかで、サポートがあれば活動したい意向がある

| | |
|------|---|
| 意向あり | 9 |
| 意向なし | 3 |

■区からのお知らせを希望

| | |
|------|----|
| 希望有り | 15 |
| 希望なし | 14 |
| 未記入 | 13 |

区のキャラバンメイトが講座の運営や講座の内容・講座を開催するにあたって不安なことについてお話をお聞きします。
 千代田区在宅支援課 地域包括ケア推進係までご相談ください。

＼いっしょにかんがえよう！



* 今回のアンケートを通して、キャラバンメイトの皆さんがそれぞれに認知症についての想いを持ち、その想いを伝えようとキャラバンメイトとして頑張っている様子を知ることができました。

* キャラバンメイトとして活動する中で、辛辣な意見をいただくことも多々あるかと思えます。しかし、それはほんの一部の意見で、受講された方はほとんどが『受講できてよかった』『認知症について理解できた』などの評価をして下さっています。講座のすすめ方や内容などで迷いや悩みがあるかもしれません。それでも受講された方は認知症について理解し、『自分だったらどう対応するか』『家族が認知症になったときにどうしたらいいか』などを考えるきっかけになっていると思います。

* 地域で仕事の場で認知症を理解して支援できる人が増えれば、認知症のご本人はもとより地域で暮らす人（仕事をする人）皆が助け合い支え合える地域・社会が作れるのではないのでしょうか。

* 今回頂いたご意見をもとに、次年度以降のキャラバンメイトフォローアップ研修をより良いものにするべく内容を検討していく予定です。

* キャラバンメイトの方から講座の際に使っている資料をご提供いただきました（ありがとうございます）。引き続き、講座の資料や参考になっている書籍・認知症の歌など講座に使えるツール等がありましたら情報をお願いします。

* この度はお忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。皆で千代田区の認知症サポーター養成講座をより良いものにしていきましょう！

千代田区 保健福祉部 在宅支援課 地域包括ケア推進係 島田 石倉 早高

〒102-0074 千代田区九段南1-6-10

電話：03-6265-6485 FAX：03-3265-1163 mail：zaitakushien@city.chiyoda.lg.jp